平成二十一　中入　国語　［前期］　（その一）　金蘭千里中学校

解答はすべて（その八）の解答用紙に書きなさい。

①大学生の「私」は、母と祖母である「蕗さん」の三人で暮らしている。「蕗さん」は若いころ舞台女優として活躍していた。お酒好きの知人「田幡さん」は、「蕗さん」に長年あこがれていたが、病気で入院してしまう。次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

春になり、庭に薔薇が咲きだすと、蕗さんはやけに熱心に薔薇の花を切り、花束にして病室へ届けるようになった。蕗さん自身が行けない時は私や母に託して。

長年のうちに、庭の薔薇は、実に大きな濃厚な感じの花を咲かせるようになっていて、その薔薇の花束は、花屋で売っているようなものとは明らかに違う野性の強さを残していた。

私がふと、田幡さんの死を予感したことがあったとすれば、その薔薇のせいだった。

その強すぎるほど強い、生き物のわななきのようにさえ感じる匂い。切り取られた植物の、切られてなおまき散らすA容赦のない命の気配。

それに抵抗できないくらい弱々しい、ベッドに横たわる病人の存在。いくらなんでも、薔薇に圧倒されてしまうようではまずいのではないだろうか、と私は不安に駆られた。いっそ、こんな薔薇、捨ててしまった方がいいのではなかろうか。

しかし、それは、田幡さんの永遠のアイドルである蕗さんが持ち込んだものだったから、私のアいちぞんで捨てるわけにはいかない。そんなことをしたら、それこそ田幡さんは消沈してしまう。

私は、少々忌々しい気持ちで、病室の薔薇を見つめた。

いったいどうして蕗さんはこんなものを、こんなに大量にここに持ってくるのだろう。

ある朝、ついに決心して、私は寝間着の上にカーディガンをイはおり、蕗さんを止めに行った。

「蕗さん、田幡さんの病室には、もうたくさん薔薇があるわ。これ以上どうするつもりなの？　持っていっても置き場所がないわ」

「萎れてきた薔薇と交換して新しいこれを」

「萎れてきたものなんて、まだないと思う」

「あるはずだから。よく見て、交換してきてちょうだい」

「私はいや。①もう薔薇は持っていきたくない」

「どうして？」

「どうして、って。田幡さんだって、困ってる」

薔薇に困惑していたのは田幡さん本人ではなく、本当は私や、何人かの病院関係者だったのに、さも田幡さんが困っているとでもいうようなねじ曲げた感じで、私は蕗さんに訴えかけた。

「②困ってる？」と、不思議そうに蕗さんが訊いた。なんだか子供みたいに素直な感じの訊き返し方だった。

ほんとは困ってなんかいないのだから、私は言葉につまってしまった。

私は一つため息をついた後、

「ねえ、どうして薔薇なの？」と、蕗さんにたずねた。

「どうして薔薇か？」

蕗さんがそう訊き返して、ふっと笑った。

「そう。どうして薔薇か」

「どうしてだろうね？」

蕗さんは、はさみを握った手を胸の辺りで止めて、しばし考えこむウしぐさをした。それから、

「やがて目覚めない朝が来る」とつぶやいた。つぶやいて、すうっと腕を伸ばし、ちょきん、とはさみで薔薇の茎を切り取った。

「それなあに？」と私はたずねた。「お芝居の科白？」

受検番号

平成二十一　中入　国語　［前期］　（その二）　金蘭千里中学校

蕗さんは、笑って、
「お芝居の科白なわけないでしょう」と答えた。「そんなものは、とうの昔にみんな忘れてしまった」
「じゃあなんなの？」
蕗さんが切り落としたばかりの薔薇を私にくれた。白い大輪の薔薇だった。
「眠りにつく時によくそう思った。やがてこのまま目覚めない朝が来る。それは明日の朝かもしれない」
「恐いこと言わないで」
「恐いけど、③それはそうなんだから仕方がない」
「だけど」
「薔薇の咲く季節は、薔薇を切って、寝室に一輪活けておいた。そうすると、眠りにつくまで、その匂いに包まれて、それはそれはいい気持ちになるからね。ああ、この世にはなんと美しいものがあふれていたことだろうと、夢見心地になれる。錯覚だったとしても、ここにいたことが、素晴らしいことだったように感じられる」
棘に気をつけて、と蕗さんが私を注意した。白い薔薇から、甘い、【　　a　　】するような匂いがしていた。
「とはいえ、少し病室には多すぎたかもしれないね。有加、今日摘んだ薔薇は、リビングに飾りましょう。その薔薇は有加の部屋に」

田幡さんが亡くなった日、蕗さんは、風邪をこじらせて家で寝込んでいた。
なにしろ田幡さんは危篤とかそういう状態だったわけではなく、とにかく突然逝ってしまったから、その日その場に居合わせたのは私だけだった。
前日はハワイから帰国したばかりの（注１）富樫さんエふさいといっしょに見舞いに行き、その日も富樫さんと病室で落ち合い、その後うちでいっしょに晩ご飯を食べることになっていた。
それなのに。
病室に着いたら、田幡さんのオようだいが急変したところだった。
【　　b　　】とあわただしく動き回る人々に富樫さんの（注２）ウクレレが倒された。
◆前日ハワイで習いだしたウクレレを富樫さんは田幡さんに披露し、田幡さんは喜んでいっしょに歌まで歌っていた。あまりにも田幡さんに受けたので、富樫さんは、夫の茂山さんが止めるのもかまわず、病室でウクレレを弾きまくり、明日もまた弾いてあげる、と言ってウクレレを置いて帰ってしまったのだった。
それにしてもこの薔薇、すごいじゃないの、あっちもこっちも薔薇だらけね、と富樫さんが病室の薔薇を見渡しながら言うと、田幡さんが、④この薔薇のせいで、よく夢を見るんだ、と答えた。
へえ、どういう夢よ、と富樫さんがウクレレをつま弾きながら訊いた。
あの庭でよっぱらってる夢、と田幡さんが言った。
ははん、なるほどねえ、と富樫さんが感心した。夢の中までよっぱらってんのね、あんたは。まったくどこまでも呆れた人だわ。
茂山さんが、病室でウクレレ弾いて騒いでいるきみの方が呆れた人だよ、と突っ込んだ。
あら、ひどい。でもさ、それはそれで幸せな夢よね、ね、たばっちゃん、と富樫さんが言った。もしかしたら一番幸せな夢なんじゃない？
ああ、そうかもしれないな、と田幡さんは微笑んだ。
田幡さんと富樫さんの会話を聞いて、私は、自分がなんだか⑤重大な間違いをしでかしていたような気がしてならなくなって、じゃあ、もっとたくさん薔薇があってもいいのかしら、と【　　c　　】とたずねると、富樫さんがなんの躊躇もなく、じゃんじゃん持って来ておやんなさいよ、と言った。たばっちゃんの夢が長く長く続くように。
だから田幡さんが亡くなったその日、私は、病室に、一抱え、薔薇を持って来ていた。
出掛ける前、寝込んでいる蕗さんにその話をしたら、じゃああたしもその夢を見よう、と咳き込みながら言うので、蕗さんの部屋にも薔薇を活けてあげた。
それじゃ行ってくるわね、今夜は富樫さんといっしょにご飯だからね、風邪ひどくならないように

受検番号

平成二十一　中入　国語　［前期］　（その二）　金蘭千里中学校

気をつけててよ、と私が声をかけると、蕗さんは、ああ、うん、だいじょうぶ、田幡ちゃんといっしょに［　X　］夢を見て、風邪なんか吹き飛ばしてやるから、と笑って返した。

だからあの日、田幡さんは、蕗さんと同じ夢を見ながら逝ったのではないだろうか。

そうだったらいいのに。

薔薇を抱え、［　Y　］を握りしめ、病室の隅で【　　d　　】していただけの私は、富樫さんが来るまで泣くことすらBままならず、薔薇の匂いに包まれて、ただぼんやりと立ちつくしていた。

（大島真寿美『やがて目覚めない朝が来る』一部改めたところがある）

（注１）富樫さん…蕗さんの事務所で働いていた女性。年を取ってから、ハワイで暮らしている。

（注２）ウクレレ…ハワイの楽器。小さなギターのような形をしている。

（一）太字部ア～オのひらがなを漢字に直しなさい。

ア　いちぞん　　イ　はお（り）　　ウ　しぐさ　　エ　ふさい　　オ　ようだい

（二）太字部Ａ・Ｂの言葉を本文中と同じ意味で正しく用いている文はどれか、それぞれア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

Ａ「容赦のない」

ア　しめ切りは三日前だと言ったのに、まだ持ってこないなんて容赦のない話だ。

イ　彼はまだ日本に来て半年なので、その言葉の間違いは容赦のないことだと思う。

ウ　私が抜かされたためにリレーは三位に終わり、容赦のない気持ちになった。

エ　相手は中学生だというのに、高校生チームは容赦のないボールを投げた。

Ｂ「ままならず」

ア　妹の性格は実にままならず、私はいつもゆずるはめになった。

イ　その映画の終わり方は原作のままならず、気に入らなかった。

ウ　好きな本を読むこともままならず、受験勉強に追われていた。

エ　世の中はままならず、希望した会社で働けることになった。

（三）空欄ａ～ｄにあてはまる言葉としてもっとも適切なものを、それぞれア～カの中から一つ選び記号で答えなさい。同じ記号は二度以上使わないこと。

ア　おずおず　　イ　いそいそ　　ウ　ばたばた　　エ　おろおろ　　オ　おっとり　　カ　うっとり

（四）傍線部①「もう薔薇は持っていきたくない」とあるが、病室の薔薇を見て私はどのような気持ちになるのか、次の空欄【　あ　】～【　う　】を指定された字数でうめる形で説明しなさい。

※【　あ　５字　】を感じさせる薔薇の匂いが、弱々しい【　い　５字　】を圧倒してしまうのではないかと不安になり、さらにそのような光景から【　う　６字　】を予感してしまう。

（五）傍線部②「困ってる？」とあるが、この時の蕗さんの気持ちとしてもっとも適切なものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア　せっかく苦労して毎朝薔薇を用意しているのに、田幡さんが困っていると聞いて、気分を害している。

イ　田幡さんが喜んでくれるのは自明のことだと考えていたので、思いがけない有加の言葉におどろいている。

ウ　まだ子供だと思っていた有加が自分のあやまちを指摘したことにショックを受け、言葉を失っている。

エ　薔薇は病院関係者にとって迷惑なのだと気づいたが、今さらどうするべきかわからず、とまどっている。

（六）傍線部③「それはそうなんだから」の示す内容を、四十五字以内でわかりやすく説明しなさい。ただし、「朝」という言葉を使わないこと。（句読点を含む）

（七）田幡さんが亡くなる「前日」の病室の様子が書かれているのは「◆前日ハワイで」からどこまでか、終わりの六字を答えなさい。（句読点を含む）

（八）傍線部④「この薔薇のせいで、よく夢を見るんだ」とあるが、この時の田幡さんの気持ちとしてもっとも適切なものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア　病室の光景を不審に思う富樫さんに、薔薇は自分にとって必要なものであることを理解して

受検番号

平成二十一　中入　国語　［前期］　（その四）　金蘭千里中学校

ほしいと思っている。

イ　「私」に勧められた通り薔薇を活けてみると、お酒を飲んだようにいい気分になれるので、嬉しく思っている。

ウ　薔薇の濃厚な香りのために、現実にはない場所で楽しく過ごす夢を見られることを、不思議に感じている。

エ　大切な人に毎日たくさん薔薇をもらい、しかもそのおかげで好きな物の夢を見られることに至福を感じている。

（九）傍線部⑤「重大な間違い」とは具体的にどの行動をさすか、五十字以内で説明しなさい。（句読点を含む）

（十）［　X　］に入る「夢」の内容を十五字以内で考えて答えなさい。

（十一）［　Y　］に入るもっとも適切な言葉を本文中から抜き出して答えなさい。

②次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

大学入学者のX学力低下は、実際に教育の現場に立っていると、しみじみ実感されます。

先般、ある授業で百枚ぐらいレポートをまとめて読んだのですけれども、内容に関しては、一昔前なら小学校高学年程度というのが全体の半分ほどでした。「小学生的」というのは、自分の主観的な「好き／嫌い」「わかる／わからない」がほとんど唯一の判断基準になっているということです。

ある程度論理的であったりとか、ある程度知識があったり、あるいは教師の言うことに対して、「私はそれとは意見が違う」と反論を向けるといった「A**骨のある**」ものというのは百枚ほどのうちにわずか二、三枚という感じです。大半は、小学校の遠足の感想文みたいな、「遠足に行ってお弁当を食べて楽しかった」みたいな感じの、「先生の授業を聞いて、いろんなことがわかりました」とか、これのどこがレポートかというような、愕然とするようなものばかりです。

しかし、もうそういうのにもだいぶ慣れてきましたので、それくらいのことでは最近驚かないのです。

①大学生の学力低下のわかりやすい**アしひょう**としては誤字があります。今から七、八年前のことですけど、うちの大学のレポートに「精心」という誤字があって、これを見たときにかなりショックを受けました。「精心」という字を見たら、本人だって「あれ、どこか違うみたい……」と思うはずですけれど、そう思わないのが不思議です。

これはもう少し最近のことですけど「無純」という文字に出会ったことがありました。②これは「精心」よりも衝撃が大きかった。というのは、この「無純」という文字を書いた学生はこの言葉を正しい意味で使っていたからです。つまり、「無純」を「矛盾」という意味で使っている。ですから、「むじゅん」という言葉を口頭で語っている限りは、彼女の破綻は（注１）露呈しない。それどころか、この「無純」という文字は、複数の対立する要素が混在しているために「純では無い」事態を示している。つまり、彼女はこの字を自力で考え出したということです。「むじゅん」という音から推して「無」と「純」とを組み合わせて造語したというのはかなり高い知力の持ち主であることを予測させます。問題は、それほどの知力を持っていながら、「矛盾」という字を再現することができないということです。

もちろん矛盾を「予盾」と書いたりする誤字はこれまでもよくありました。けれどもそれは「矛盾」という字は知っているし、読めばわかるけど、厳密には再生できないというだけのことです。そういう字はいくらでもある。でも「無純」はそういう種類の不正確さとはレベルが違う。

ここで僕は考え込んでしまいました。「どうしてこの学生は『矛盾』という文字をこれまでの二十年間の人生、読まずにすませてきたのか？」ということです。新聞にも小説にも、「矛盾」という文字はどんどん出てきますから。彼女だって、これまでおそらく数百回、数千回この文字には出会っているはずです。にもかかわらず、「矛盾」という文字を読まずに済ませてきた。

その理由は何でしょうか？

それを「本を読まないからだよ」と単純にくくってしまっては話がわからなくなってしまうと思います。だって彼女たちは文章は沢山読んでいるからです。マンガにしたって、彼女たちが愛読しているファッション誌だって、情報誌だって、大量の文字情報を含んでいる。もちろん「矛盾」程度の**イかんご**はマンガにだってファッション誌にだって頻出します。それにもかかわらず「矛盾」が書けない。なぜか？

受検番号

平成二十一　中入　国語　［前期］　（その五）　金蘭千里中学校

おそらく彼女たちはその文字を読み飛ばしているからだと思うんです。

この「③読み飛ばし能力」が、今の若い人たちは、僕たちの想像を超えるくらいに発達している。ページを開いて、ぱっと見たとき、その読み方がわからない、意味がわからない単語があった時に、それを軽々とスキップする。スキップしてもぜんぜん気にならない。

「スキップする」こと自体は悪いことではないんです。人間知性と機械知性の大きな違いは、人間は意味のない情報を無視することができるという点にあります。ですから、これはこれでいいんです。

ただ、普通は意味がわからない言葉にB遭遇するとスキップしようとしても、なんとなく気になる。引っかかる。「わからないもの」を「わからないまま」にしておくというのは、人間にしかできないことです。というのは「判断を差し控える」ということは「理解したい」という欲望を手つかずに持続させ、場合によっては「理解したい」という欲望を（注2）亢進させることだからです。わからない情報を「わからない情報」として維持し、それを時間をかけて噛み砕くという、「先送り」の能力は人間知性の際立った特徴なわけです。

ところがこの「無純」と書く学生の誤字のありようを見ていると、どうやらその「わからないもの」を「わからないまま」に維持して、それによって知性を活性化するという人間的な機能が低下しているのではないかという印象を受けます。「わからないもの」があっても、どうやらそれが気にならないらしい。

新聞や雑誌を読んでいるとき、知らない言葉に出会うことは僕たちにもよくあります。そして知らない言葉でも、「知らないままでいい言葉」と「これは知らないとまずい言葉」の区別ができる。「知らないとまずい言葉」については、知っていそうな人に「これ、どういう意味なの？」と訊いたり、家に帰ってから辞書を引いたりして、「穴」を埋めてゆく。

けれども、今の若い人たちは、その④「穴埋め」作業をどうやらしていないらしい。自分がわからない言葉が、明らかに彼らを読者に想定しているメディアの中に頻出してきても、それが気にならなくなっている。

僕は「わからないこと」より、この「わからないことがあっても気にならない」ことの方に危機の兆候をウかんちするのです。

彼ら彼女らにとっては、わからない言葉やわからない概念がそこらじゅうに散らばっている。「矛盾」が読めないくらいですから、新聞のエがいこう面や経済面では、たぶん全体の三分の一くらいが意味不明の文字で埋め尽くされているのだろうと思います。メディアを通して見える世界は「虫食い」的に、一面に「意味の穴」が開いている。たぶん、そういう状態になっているんじゃないかと僕は想像します。

もし自分がそうだったら、目に見える風景の中にあちこち「虫食い」の穴が開いていたら、これはかなり不愉快です。僕だったら我慢できない。でも、今の若い人たちはどうやら世界が「虫食い」状態に見えることが我慢できないほどに不快ではないらしい。

何年か前、僕のゼミの学生が現代人の言語能力の低下をオとうけい的に調べようとおもって、学生によく読まれているファッション雑誌のC任意の一ページをコピーして学生に配布して、「このページの中に知らない言葉があったら、マーカーでしるしをつけてください」というアンケートをとったことがあります。結果を見せてもらって驚いた。すごいんです。そこらじゅうマーカーだらけで。

ファッション用語には、英語やフランス語やイタリア語が飛び交っていますし、毎月どんどん新語が出てきますから、女子大生とはいえそういうのに追い付くのはけっこうたいへんだろうなと思ってはいたんですけど、まさか読者たち自身がこれほど言葉の意味がわかっていないで読んでいたとは知りませんでした。読んでいる人たちは月に何冊も読んでいる。あの膨大なファッション情報をよく処理できているなあとそれまでは感心していたんですけれど、あの子たちも別に意味がわからないままに【　⑤　】していたわけです。

自分たちのいちばん身近にある活字メディアの中の文章さえ平気でスキップしていくということは、これはもう「能力」と言ってよいと思うのです。

つまり、この方たちは意味がわからないということにストレスを感じないということです。

あきらかに自分を読者に想定して発信されている言語記号が意味不明であっても、とりわけ不快を感じない。そういう独特なカかんじゅせいの構造がどうもここ三十年くらいの間に若い世代の間に根付いてしまったらしい。

どうしてこんなことになってしまったのか。そこに僕は興味がある。

受検番号

平成二十一　中入　国語　［前期］　（その六）　金蘭千里中学校

意味がわからないことばに取り囲まれて生きているのは、ふつうに考えればストレスを感じる経験です。気になってしかたがない。そんなストレスをつねに抱え込んでいたのでは、生物としての（注３）パフォーマンスが下がる。だから、選択肢は二つある。一つは、【　　⑥　　】。もう一つは【　　⑦　　】。弱い動物はショックを受けると仮死状態になります。そのように心身の感度を下げることで、外界からのストレスをやり過ごすというのは生存戦略としては「あり」なんです。おそらく、現代の若者たちも「鈍感になるという戦略」を無意識的に採用しているのでしょう。それでＹ学力低下という現象も部分的に説明がつくんじゃないかと思います。

Ｚ学力低下の危機的な要素の一つは、先ほども言いましたが、子どもたちが、自分たちには学力がないとか、英単語を知らないとか、論理的思考ができていないといったことを多少は自覚していても、そのことを特に不快には思っていないという点にあります。

どうしてそういうことができるのか、僕にはよくわからなかったのです。でも、これを説明できる論理というのは、よく考えると一つしかない。

それは、彼らは「自分の知らないこと」は「存在しない」ことにしているということです。

僕たちは意味のわからない文字が視野を横切ると、「ぎくり」とする。それは、意味で満たされているべきところが空白になっていることに微妙な違和感を覚えるからです。僕たちがある物を見て、ひっかかりを感じるのは、そこにあるべきものがない、あるいはそこにあるはずのないものがあるからです。「なんだかわからないもの」が「ある」。何かはわからないが「ある」。ところが、「わからない言葉」をスキップする学生たちにとって、「なんだかわからないもの」は「ない」んです。視野に入るものが「なんだかわからないもの」ばかりだったら、その場合は、もう一つ新しく「なんだかわからない」ものが視野を横切っても気になりませんよね。たぶん、そういうことじゃないかと思うんです。

若い人たちにとっては、世界そのものが意味の穴だらけなんです。チーズみたいに。⑧そこらじゅうにぼこぼこの意味の空白がある。世界そのものが穴だらけだから、そこにまた一つ「意味のわからないもの」が出現しても、チーズの穴が一個増えただけのことですから、軽くスキップできる。たぶん、どこかの段階で、「意味のわからないもの」が彼らの世界で意味を失ってしまったのです。

（内田　樹『下流志向　学ばない子供たち　働かない若者たち』一部改めたところがある）

（注１）露呈…あらわになる　（注２）亢進…たかぶり、進む　（注３）パフォーマンス…処理の遂行具合

（一）太字部ア～カのひらがなを漢字に直しなさい。

ア　しひょう　イ　かんご　ウ　かんち　エ　がいこう　オ　とうけい　カ　かんじゅせい

（二）太字部Ａ～Ｃの本文中における意味としてもっとも適切なものを、それぞれア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

Ａ「骨のある」

ア　多くの内容を含む　イ　強い気性を持った　ウ　中心となる内容のある　エ　核心となる

Ｂ「遭遇する」

ア　理解せざるをえなくなる　イ　思いがけなく出会う　ウ　まきこまれる　エ　とらわれてしまう

Ｃ「任意の」

ア　意味のある　イ　選ぶ者の思いにまかせる　ウ　ある特別な　エ　特別な選び方をしない

（三）傍線部①「大学生の学力低下」とあるが、その具体的な内容として適切でないものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　それまで目にしたことのないような誤字がレポートの中に出現するようになった。

イ　教師の言うことを理解せずに自分の考えばかりを述べているレポートが多くなった。

ウ　与えられたテーマに対してある程度の知識を持っているだろうと思わせるレポートが少なくなった。

エ　講義の内容に対する自分の思いだけを書き連ねたレポートが多くなった。

オ　どう考えてもおかしいはずの誤字を疑ってかかった形跡さえないレポートがあらわれた。

（四）傍線部②「これは「精心」よりも衝撃が大きかった」とあるが、なぜそのように感じたのか、

受検番号

平成二十一　中入　国語　［前期］　（その七）　金蘭千里中学校

次のア～エから適切でないものを選び記号で答えなさい。

ア　「無純」という誤字は、それまでにもよくあった「その文字のことは知っているし読めるし書ける」といったパターンのものとは全く性質が異なる、筆者にとっては初めてのタイプのものであったから。

イ　「無純」という誤字を使用した学生は、高い知力を持っているにもかかわらず、それまでの人生において「矛盾」という語を理解しないままで生活しても平気であったのだということがうかがわれたから。

ウ　「無純」という誤字を使用した学生は、それまでにも何度も「矛盾」という文字を目にしていたであろうに、それを読もうとしなかったのだということが推測されたから。

エ　「無純」という誤字は、意味的には「複数の対立する要素の混在」を示していることから、それを使用した学生は「矛盾」の意味を口頭でのやりとりだけで類推（ぞうすい）できる知性を持っていたことになるから。

（五）傍線部③「読み飛ばし能力」とあるが、これについて述べた次のア～オの記述から、もっとも適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　意味のない情報を無視することによって人間らしい知性を保つための能力である。

イ　なんとなく気にかかったり、ひっかかったりすることを追究する能力である。

ウ　「わからない情報」を「わかる情報」に噛み砕いて行く能力である。

エ　人間知性には備わっていないが、機械知性には備わっている能力である。

オ　本来は、物事をさらに理解したいと思うことにつながるはずの能力である。

（六）傍線部④「「穴埋め」作業」とあるが、どういう作業か、文中の言葉を用いて二十五字以内で書きなさい。（句読点を含む）

（七）空欄⑤に入りうる表現を、文中から四字で二つ抜き出しなさい。

（八）空欄⑥⑦に適した表現を考えなさい。ただし、解答欄の形式に従い、「意味がわからないことを」で始め、「というもの」で終わるものとし、その間は十字程度とすること。

（九）傍線部⑧「そこらじゅうにぼこぼこの意味の空白がある」とあるが、この状態を言い換（か）えた表現を文中から三字で抜き出しなさい。

（十）この文章の表現上の特色を述べた次のア～エの記述から、もっとも適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　自ら経験したことだけにとどまらない様々な具体例を効果的に用いることで、述べていることに説得力を持たせることに成功している。

イ　繰（く）り返（かえ）しや倒置（とうち）を用いることで、筆者の言いたいことを読者に強く印象づけることができ、文章全体を手短にまとめることに成功している。

ウ　読者に対する問いかけや、それに対する筆者なりの答えを一つの形式段落にすることで、学力低下に対する筆者の強い危機感が感じられる文章になっている。

エ　実際に行われた講演をもとに書かれた文章であり、話し言葉的な表現や言い回しが用いられているということもあり、読みやすい文章になっている。

（十一）二重傍線部X、Y、Z「学力低下」とあるが、「大学入学者」や「現代の若者たち」、そして「子どもたち」の学力低下はなぜ起こっていると筆者は考えているか。「学力低下」が起こる過程をまとめた次の図の空欄【　あ　】～【　か　】には文中からあてはまる表現を指定された字数で抜き出し、《　A　》《　B　》にはあてはまる表現を自分で考えて指定された字数で書きなさい。

●そもそも身の回りに【　あ　5字　】ことが《　A　5字以内　》。
←
●そのことによる【　い　4字　】を感じたくないので無意識に【　う　5字　】を下げる。
←
●【　あ　5字　】ことが少々増えてもそれは「【　え　2字　】」こととして取り扱（あつか）い、物事を知らないことを【　お　2字　】に思わなくなる。
←
●「【　か　7字　】」ばかりが発達し、ますます身の回りに【　あ　5字　】ことが《　B　5字以内　》。

受検番号

平成二十一　中入　国語　［前期］

（その八）　金蘭千里中学校

①

（一）ア　イ　ウ　エ　オ

（二）A

（三）a　b　c　d

（四）あ　い　う

（五）

（六）

（七）

（八）

（九）夢

（十）

（十一）

②

（一）ア　イ　ウ　エ　オ　カ

（二）A　B　C

（三）

（四）

（五）

（六）

（七）●　●

（八）⑥意味がわからないことを　というもの

⑦意味がわからないことを　というもの

（九）

（十）

（十）あ　い　う　A　B

え　お　か

得点

受検番号